



佐世保市立福石小学校

所在地 佐世保市大宮町3番地1号

校長 宮地 哲史

児童数 211名 学級数 11学級 (令和7年5月1日)

1 学校教育目標

『 思いやりのある子 』
『 やる気のある子 』
『 元気のある子 』



2 テーマ

『 「思いやり」と「やる気」と「元気」のある子どもの育成 』

3 目的

- (1) 変化の激しい社会を生きぬく「確かな学力」の定着を図り、夢(目標)に向かってICTを最大限に利活用し、自ら課題を見つけ、解決していこうとする意欲を高める。
- (2) さまざまな人とのふれ合いを通して、他者との関わり方やコミュニケーションの仕方を学び、感謝する心や優しく思いやりのある心を育む。
- (3) 「ふるさと(地域)」に目を向け、地域よさや魅力を発見し、地域での体験や交流活動を通して、よりよい地域の未来をつくっていこうとする心を育てる。

4 成果と課題

◆ 「思いやり」のある子

○平和学習(4年、6月)

今年度も、平和案内人の説明を受けながら平和公園や城山小学校を見学することができた。このことにより、より深く実感を伴いながら、原爆の実相を理解し、その恐ろしさや被爆者に思いを巡らせ、平和な世の中にするためにどうすればよいかについて考えを深めることができた。



○花いっぱい運動（全学年、通年）

学校園に季節の花や野菜を植え、潤いある環境づくりに努めた。異学年との交流をおこない、継続して世話をし、植物を大切に育てようとする心を育てることができた。



○感謝集会（全学年）

日頃から登下校の見守りでお世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを伝える取組として、感謝集会をおこなった。

児童からの手紙やメダル、花を贈り、日頃のありがとうの気持ちを伝えた。地域の皆様とのつながりを大切に持続していけるように、今後もこの取組を継続させていく。



◆ 「やる気」のある子

○学力調査の実施（2～4学年、4月）

学びを起こす授業の実現に向けた授業改善（全学年、通年）

まず、5・6学年が年度当初に学力調査を実施するのに合わせて、2～4学年児童も習得した学力の実態把握と授業改善のための基礎資料となる学力調査をおこなった。研究主任を中心に、全職員で学力調査結果の分析をおこない、各担任が授業計画に活用した。

特に授業改善においては、効果的な児童用端末の利活用と、児童の学びを起こす授業の実現へ向けた授業改善のための10の視点を念頭に掲げ、児童の実態に応じた実践を重ねた。職員一丸となって取り組んだことで、端末の利活用が確実に進んだ。また職員一人一人が10の視点を意識しながら、日常の実践を積み重ねたことで、児童が自分で解決の手段を選択する場や、児童が自分の言葉で伝え合う場、児童が自ら工夫する場が生まれ、まさに児童の主体的な学びの姿を表現することができた。

予測困難な未来を生き抜く子供達が生きる力を身に付けるためには、子供の学びを起こす授業の実現が急務である。児童の実態を踏まえながら、職員で研修を重ね、実践していくことが肝要である。

「学びを起こす授業」の実現へ向けた授業改善のための10の視点

- 導入 1 「授業（単元）のスタート」をより魅力的にしたい
- 単元 2 単元の中に「学びの舞台」を設けたい
- 発問 3 発問・指示が明確で、ぶれないようにしたい
- 活動 4 子供が選択・判断する時間を設けたい
- 包摂 5 すべての子供に「居場所」と「活躍の場」を設けたい
- 評価 6 見取り・評価・評定を適切に行いたい
- 教具 7 ICT利活用を含む有効な手立てを準備したい
- 説明 8 教師の説明の時間が短く不要なしゃべりをなくしたい
- 教材 9 教材研究（教材解釈）を深めて授業に臨みたい
- 称賛 10 授業中の子どもの変容や挑戦を存分に褒めたい

【使い方】個人や学年・学校単位で、（今学期はこれ、今月はこれなど）時期を決めてセレクトしたり、実現へ向け、具体的な下位目標を設定したりしましょう。さらに、週案等に振り返りや手応えを記入していくと変化が視覚化でき効果的です。職員同士の対話の材料としても活用できます。

○家庭学習の充実（全学年、通年）

児童が家庭学習を計画的に進められるように家庭との連携を図りながら、毎月「家庭学習の振り返り」をおこなった。振り返りの視点は、全学年次の4項目である。

- 1：スケジュールどおりに学習を始めた
- 2：宿題ができた
- 3：宿題以外の学習ができた（読書・自主学習など）
- 4：めあての時間、学習ができた

（低学年は30分間、中学年は40分間、高学年は1時間以上）

全児童の集計結果は次のとおりである。

振り返りの視点	全児童集計結果
1	8. 9
2	9. 4
3	6. 7
4	8. 6



今年度は特に、「1：スケジュールどおりに学習を始めた」「2：宿題ができた」について、家庭学習の充実を図る上で児童の意識を高めることができた。学年によっては、自主学習が充実し、成果が表れた。今後も啓発活動を行いながら家庭学習の充実を進めていく。

○ふるさと学習の充実（全学年 通年）

児童が生活科や総合的な学習において自らの課題に取り組み、育った町や地域のよさを見つけ、まとめたことを発表することができた。特に、2年生は地域の町たんけんに出かけたりダービースクールとの交流をおこなったりした。また、3年生は佐世保市のこと、6年生は長崎県各市町村のことについて調べ学習を進め、ふるさとについての学びを深めた。

今年度特に「茶道体験教室」で地域の方と触れ合う場を、「異文化理解講演会」で地域の方の話を聞く場を実現させることができた。多様な他者と触れ合う学びは、子供達が日頃の学習を広げること、深めることにつながる学びとして大変有意義な取組である。実際に子供達の声の中にも、人との接し方やこれからの生き方に触れる感想が寄せられた。今後も取組を継続していけるよう尽力する。



◆「元気」のある子

○あいさつの活性化

あいさつの活性化を目指し、児童、保護者、地域が一丸となって取り組んだ。まず児童は、代表委員会での話し合いをきっかけに、高学年を中心にあいさつ運動に取り組んだ。また、児童が本校の合言葉「福石小にはあいがある」をのぼり旗に新しくデザインし、あいさつの雰囲気を高めた。さらに、保護者・地域に有志により、月2回の朝の一声運動を展開させ、あいさつの活性化に取り組んだ。



○メディア講演会

「子供の心身の健康について～メディアとのかかわり方～」
(6年児童、保護者、学校保健委員会)

SNS 上でのトラブルや、生活時間の乱れ等児童の諸課題の解決に向けて、学校保健委員会の取組として、親子でのメディア講演会を実施した。

専門家による話を聞くことで、メディアが身体や精神にもたらす影響や、家庭においてメディアと上手に付き合っていくための正しい知識について情報を得ることができた。「子供にスマホを与える時点で、トラブルはあると考える」「子供が親と話せる環境をつくる」「ネットやスマホなどのトラブルから、とにかく子供を守る」「友達とゲームをしているならば、友達とやめる時間を決めさせる」など、ハッとさせられる言葉や、すぐにでも使える手立てをたくさん教えていただいたことで、今後につながる学びの場を得ることができ、大変役立つ内容であった。

